

私の国際交流の経験

特集編集にあたって

編集チームリーダー 塩本公平

本特集は、国際交流活動に携わっている経験豊富な方々の経験とその経験を通じて得られた見識を集めることを企画し、以下に述べる八つのテーマの記事から特集を組んだ。

(1) 海外大学での教授職

小林久志先生(プリンストン大学), 石井裕先生(MIT), 須田達也先生(カリフォルニア大学アーバイン校)に、北米の大学の教授職の経験を、また、高橋謙三先生(福井大学, 電気通信大学), 多賀秀徳先生(国立中山大學)に、アジアの大学の教授職の経験を執筆頂いた。

(2) 国際標準化

安田浩先生(東京電機大学), 内藤悠史氏(三菱電機)に、JPEG・MPEGあるいはITUでの国際標準化の経験を、また、川村龍太郎氏(NICT, NTT)には業界標準化団体OSGiでの経験を執筆頂いた。

(3) 大学の国際化

角山茂章先生(会津大学)に会津大学における国際化の取組みを執筆頂いた。

(4) 学術ネットワークの国際連携

小西和憲先生(サイバー大学)及び後藤滋樹先生(早稲田大学)に、Internet 2やAsia Pacific Advanced Network (APAN)等の活動を通じて進められている学術インターネットの国際連携の経験を執筆頂いた。

(5) 学会における国際交流活動

山中直明先生(慶應義塾大学)に電子情報通信学会通信ソサイエティ国際交流幹事としてのIEEE ComSocとの交流活動の経験を執筆頂いた。

(6) 海外企業での研究開発のマネジメントと実務

今井和雄氏(ドコモUS研究所)に日本企業の現地法人での研究開発のマネジメントの経験を、また、大場義洋氏(米国東芝)に日本企業の現地法人で研究開発の実務での経験を執筆頂いた。

(7) 海外大学でのPh.D.取得, MBA取得

白井宏先生(中央大学)にPh.D.取得の経験を、国松大介氏(沖電気工業)にMBA取得の経験を執筆頂いた。

(8) 海外大学での客員研究員

岩田淳氏(NEC)に米国大学での客員研究員の経験を、また、堀貴明氏(NTT)及び村松純氏(NTT)には米国及び欧州の大学における客員研究員の経験を執筆頂いた。

本特集は、会誌編集委員会の通信分野の作業部会であるWG・Bのメンバーが中心となって企画したが、分野としては、通信分野に偏らずに、基礎・境界、エレクトロニクス、情報・システムを網羅的に扱うように心掛けた。このため、他の作業部会のメンバーにも協力を頂いた。特に荒川賢一編集特別幹事、趙晋輝編集特別幹事、豊泉洋編集委員には執筆者を推薦頂いた。

国際交流を促進させることで、我が国の電子情報通信が更なる発展を遂げることを期待したい。国際交流を促進させるためには、国際的に通用する人材が必要である。本特集号を読んで、読者が国際交流にチャレンジすることを考えるきっかけとなり、あるいは、既に国際交流へチャレンジを考えている読者への具体的な助言となれば幸いである。

最後に、多忙な中記事を執筆頂いた執筆者の皆様、学会事務局の皆様をはじめ、本企画を進める上で御協力御支援頂いた方々に、本特集編集チーム一同を代表して心より御礼申し上げます。

特集編集チーム	塩本 公平	山本 全昭	中村 元	青木 信久	居相 直彦	岡田 康義
	亀田 洋志	新藤 浩之	杉山 一雄	田上 敦士	野中 尚道	藤野 義之
	松村 宏一	道方 孝志	村井 仁			